

2021年 年頭ご挨拶

アサヒビール株式会社
代表取締役社長 塩澤 賢一

2021年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中はアサヒビールに格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大し、日本でもテレワークが進むなどライフスタイルが劇的に変化しました。想定外の事象などに対しても柔軟かつ迅速に対応していくことの重要性を改めて感じております。私たちは全社員が想いを一つとし、すべてのステークホルダーの皆様との強固な共創関係を構築していくことにより、この世界的な変化の中でも、新たな価値を創出していきたいと考えています。

当社は、グループ理念“Asahi Group Philosophy”で掲げるミッション「期待を超えるおいしさ、楽しい生活文化の創造」の実現に向け、昨年からはアサヒビールの長期経営方針を「“Value 経営” への変革、お客様にとっての価値や新市場の創造を目指す」とし、既存の酒類市場の在り方にとらわれず、新たな発想で特別な価値や体験の創造を目指しています。

主力の『アサヒスーパードライ』は、ブランドメッセージ「ビールがうまい。この瞬間がたまらない。」の下、ビール飲用価値の再発見と特別な飲用体験を演出する様々な取り組みを展開することで、ビール需要の活性化を図ってまいりました。コロナ禍においても、“史上最高のスーパードライ”や“工場できたてのビール”が自宅で楽しめることの訴求を強化するとともに、「明日への活力」というビールの飲用価値を情緒的に訴求するCMなどを展開してきました。外飲みにおいても、家庭では味わえない「最高の樽生ビール」をお客様に体感いただくために樽生品質向上の取り組みに注力してまいりました。

また、新しい生活様式の中、「ビール＝みんなで楽しむ、人と人の心がつながる」を訴求するオンラインイベント「ASAHI SUPER DRY VIRTUAL BAR」を実施することで、ビールを通じた新しいコミュニケーションを促進してきました。昨年以上に、消費者参加型のデジタル施策を展開することで、若年層を中心とした「スーパードライ」の新たな飲用者との双方向のコミュニケーションを強化していきます。

昨年10月には、酒税税率改正に伴いビールが減税となり、これまで以上にビールが手に取りやすくなりました。引き続き「スーパードライ」の一貫したブランド価値や特別な飲用体験をお客様にご提供することで、ビール飲用者の拡大を図ります。

新ジャンルでは、昨年3月に発売した『アサヒ ザ・リッチ』において、販売目標を上方修正し、当社の過去10年間のビール類新商品の中で最高売上を更新しました。新たな製法を導入し、“プレミアムビールのような上質さと贅沢感”を目指した新ジャンルとして、デイリープレミアムという新たな価値を提案しました。中味や缶体パッケージ、ブランドの世界観についてお客様からご好評をいただきました。

成長著しいRTDにおいては、新価値を提供する差別化ブランドとして、レモン本来の風味と香りを追求した「アサヒ ザ・レモンクラフト」を発売しました。製造工程で、レモンピールに含まれるオイル成分を0.01秒の高速で一缶ずつに直接注入する「レモンオイル滴下技術」を当社として初めて導入するとともに、香りを最大限に味わえるよう、口の広いボトル缶を採用しました。新技術を採用することで、お客様には時間をかけてゆっくりと味わえる“ご褒美チューハイ”という新たな価値を感じていただけたと思います。

本年も驚きや喜びを体感いただけるような価値を次々と創出し、“すべてのお客様に、最高の明日を”ご提供できるよう取り組んでまいりますので、どうぞご期待ください。

昨年、アサヒグループでは新たに「アサヒグループサステナビリティ基本方針」と「アサヒグループサステナビリティビジョン」を策定し、マテリアリティ（重要課題）についても刷新しました。自然の恵みを使って商品・サービスを生み出している私たちは、様々な「環境」についての課題に対し、積極的な取り組みを推進していく必要があります。商品の製造においては、グリーン電力を活用することで、再生可能エネルギーの拡大とともにCO2排出量削減に努めています。また、社有林「アサヒの森」の管理面積を拡大し、2025年までに国内ビール工場で使用する水の100%還元（ウォーターニュートラル）の実現を目指しています。さらに、エコカップ「森のタンブラー」の展開などを通じて、使い捨てプラスチックカップの削減に取り組んでいます。そして、酒類を扱う企業として「責任ある飲酒」に関する活動を推進し、不適切な飲酒の撲滅と酒類文化の健全な発展を目指しています。

グループ全体のサステナビリティへの取り組みをさらに加速させ、持続可能で豊かな社会の実現に向けて、たゆまぬ努力を重ねていきます。

最後になりますが、今後も酒類業界発展のために、日々邁進していく所存でございます。本年も変わらず倍旧のご指導を賜りますように、お願い申し上げます。

お客様のご多幸と益々のご発展をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以上